



講演会の様子

令和3年度国有林野等 所在市町村長有志連絡 協議会を開催 地域の森林・林業における 課題等について意見交換

るトップランナーから意見を聞き、今後の素材生産事業体像について議論しました。

今回の講演会には、WEB視聴方式により約80名にご参加頂き、地域で力を合わせて新しい林業に向けて取り組んで行くことの重要性が共有されました。昨年6月に閣議決定された森林・林業基本計画において示された「新しい林業」の実現に向けて、国内素材生産量の半数を担う九州と東北において、地域の林業経営体がトップランナーとして素材生産事業の効率化と高付加価値化を推進し、労働安全対策を強化しつつ収益性を向上させていくことを期待しています。

(担当＝資源活用課)

1月27日に「令和3年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催しました。

この協議会は、地域と国有林野事業の連携強化を図り、地域の発展と国有林野事業の円滑な遂行を図るため、国有林が所在する地域の市町村長（各県より代表世話人1名）及び九州森林管理局長、代表森林管理署長等で構成される協議会であり、例年は集合形式で開催していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえ、昨年継続オンライン方式による開催となりました。

会議冒頭、小島孝文九州森林管理局長から、「SDGsの達成や脱炭素社会の構築に向けて社会経済が大きな変革の時期を迎えており、森林や木材利用に対する社会や国民の皆様からの期待がますます大きなものとなっている。国有林においては木材生産や治

山事業だけではなく、国有林内の素晴らしい自然をレクリエーションの場などとして提供し、国民の皆様が親しんでいただき、都市と地方の交流を通じて地域振興に寄与していくことも重要だと考えている。特に昨年7月には奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録された。こうした地域を含めて各地域において、地元をはじめ関係者との連携を深め、観光と自然環境の保全の両立を

目指した取組を進め、林業の振興、国有林野の活用などを通じて、国有林野が所在する地域の振興に寄与していく考えである」と挨拶を行いました。また、林野庁から橘政行



挨拶される小島局長

国有林野部長外2名が出席し、林野庁の主要な取組や新たな森林・林業基本計画等について説明が行われました。その後、各代表世話人より、各県単位で開催された有志協議会のご報告や、有害鳥獣害対策、防災対策、再造林の低コスト化など各市町村における森林・林業に係る課題等について議論いただいたほか、木材生産以外の経済活動の場としての森林の活用を進め、森林サービス産業の育成の必要性などについて意見交換を行いました。

最後に小島局長より、「引き続き、森林サービス産業の場としての国有林の活用や、近年頻発する災害時の対応など様々な場面で県や市町村としっかりと連携を図りながら取組を進めてまいりたい」との発言があり、盛会の中で終了しました。

(担当＝企画調整課)



オンラインによる協議会（局大会議室）

熊本市西部地域森林整備協議会を開催

熊本県上益城地域振興局林務課の関係者12名（オンライン参加者含む）で開催され、当署から川畑充郎署長、甲斐誠一森林技術指導官、内村圭一総括地域林政調整官、永野達也熊本森林官が参加しました。

【熊本森林管理署】
2月24日、熊本県森林組合連合会会議室において、熊本市西部（金峰山）地域森林整備推進協定の運営会議である本年度の協議会を熊本森林管理署、熊本県森林組合連合会、熊本市（農業政策課、西南部農業振興センター農業振興課）、



協議会の様子



参加した熊本署の職員

から令和2年度と令和3年度の取組実績の報告、熊本県森連からUAVを用いて施業地全体の間伐率を算出するためのリモートセンシング技術活用実証事業の結果について報告がありました。

また、今後の協議会の進め方について当署甲斐森林技術指導官から提案を行い参加者で意見交換を行った結果、今後はソフト事業等にも取り組んでいくことなどが了承され、引き続き関係機関が連携・協力していくことを確認して会議を終了しました。

「世界自然遺産登録認定証（レプリカ）配布」される

世界遺産の顕著な普遍的価値が将来にわたって持続されるよう、九州森林管理局としては、引き続き関係機関等と連携を密にし、適切な保護・管理に努めることとしています。（担当＝計画課）

昨年7月に世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の登録認定証が12月末に林野庁を通じて九州森林管理局へ送られてまいりました（写真は、局長室に認定証を掲示した際の様子）。

送付された認定証の交付先は、登録地を所轄する官署で九州森林管理局本局、鹿児島森林管理署、沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センターとなっております。

なお、鹿児島県奄美大島及び徳之島、沖縄県においては、各地域で開催された記念式典に併せて該当する全市町村へ認定証の授与が行われております。

登録に至るまでのこれまでの長い取組に対する関係者の皆様に改めて敬意を表するとともに、世



認定書を掲示（左：小島局長 右：山根計画保全部長）



認定書（レプリカ）

地域林政アドバイザー 研修に講師として参加 市町村の森林・林業行政 の支援体制への取組

環として熊本県が実施しているもので、国有林職員の講師派遣及び国有林のフィールド提供を行っています。

研修では、白濱

2月9日、熊本県主催による地域林政アドバイザー研修が熊本森林管理署管内の荒強当国有林157林班外において行われ、地域林政アドバイザー候補者、市町村林務担当者、県職員を含め総勢14名が参加しました。

本研修は、森林経営管理制度の円滑な運用に向けた市町村の森林・林業行政支援の一



参加された研修生の皆さん

より当該研修地の概況及び間伐の実務及び路網の役割、高性能林業機械を用いた作業システム、森林作業道の作設のポイント等について、福山拓也企画官からは、造林事業における植付作業での普通苗の植付けとコンテナ苗の植付けについて、山鋤や開発されたコンテナ苗植付用器具等を使用しながら実施方法や作業上



講義する福山企画官



コンテナ苗植付器具を使って説明

の留意点等を説明、また、下刈等の各種作業の役割や実施方法及び低コスト造林への取組、造林事業請負の事業実行監理等へのドローンの活用による業務の効率化について講義を行いました。

今後、本研修に参加した地域林政アドバイザー候補者が各地域の森林・林業行政を支援する技術者として活躍されることを期待しています。

国有林では、国有林の持つ技術・人材・フィールドを活用し、市町村の森林・林業行政の体制支援に取り組んでいくこととします。

(担当：技術普及課)

多比良小学校「わたしたちの森づくり」植樹を開催

【長崎森林管理署】

2月18日、遊々の森「奥雲仙牧場の森」において、多比良小学校の記念植樹を行いました。この活動は、毎年実施されており、今年もコロナ感染症対策に十分注意しながらの活動となりました。

当日は多比良小学校6年生34名が2人1組となり、雲仙市を象徴するミヤマキリシマ等を植樹しました。子供たち



協力しながら植樹を楽しむ子供たち

は初めての慣れない作業に苦戦しながらも、一生懸命植樹することができ満足そうな様子でした。その後、長崎森林管理署から田代原風致探勝林の成り立ちについて森林環境教育を行いました。

毎年行われるこの植樹では子供たちの手によってたくさんの樹木が植樹され、秋になると色鮮やかに紅葉し多くの観光客が楽しむ場となっています。

コロナ禍となり、自然の活動がさらに求められていると改めて感じ、長崎森林管理署として出来ることを模索して



植樹した木に水をあげる子供

雲仙田代原レクリエーションの森管理運営協議会と豊かな雲仙の自然環境の保全と環境教育に引き続き協力していきます。



参加者全員で集合写真



安永 貴彦さん

現在、日本は人口減少社会に突入しています。経済成長、人口増加を前提とした社会が、いま転機に差し掛かっているとすれば、森林管理や活用の仕組みも変わっていくのではないのでしょうか。そこで僭越ながら、これからの森林管理の形、活用を考えてみました。

1・森林の維持管理の応援支援
森林は、木材生産だけでなく生態系維持、文化の継承、水源、レジャー利用など多様な機能を有しています。「〇〇会社の森」のよいうな「ネーミングライツ」は、企業や個人が森林の維持管理を応援する関わり方のひとつとなっています。
森林に価値を生み出そうとして活動する「森林を維持管理する人」を個人や企業が気軽に応援する応援経済のような仕組みがさらに進めば、木材生産以外の収入源としても期待できるのではないかと思います。

これからの森林管理に望むこと

2・森林由来の素材により社会の持続性を高める
林業は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた伝統的な営みです。維持管理の収益がより安定すれば、林業に密接に関わって育まれた文化、生物多様性を次世代へ継承することに貢献できると思います。

森林由来の素材により社会の持続性を高める
森林由来の素材の研究が進んでいます。今後は森林由来の素材を活用した多種連携による製品開発等により、環境に配慮した持続可能な社会の構築を進めて頂きたいと思えます。合わせて、環境に配慮した製品を消費者が積極的に選択し、持続可能な社会を次世代へと譲渡していけるよう消費者への啓蒙活動を推進してほしいです。

日本は国土の67%を森林が占める自然が豊かな国です。その豊かさが日本人の感性を育み、独特の日本文化を作り上げてきました。
森林管理に携わる方々は、日々、森林とかわる中で100年、200年先を見据える

00年先を見据える
長期的な視点、自然を生かす視点を培ってききました。森林管理に携わる方々の視点は、経済成長を前提とせず、自然を生かした持続可能な社会を創りあげていく上で重要になると思います。
森林に携わる方々には、森林活用のこれからの姿を多種多様な企業や個人と共有頂き、森林と社会の新たな関係を創出する先導役となって頂きたいと思えます。これからの活躍を期待しております。



玉城城跡（玉城グスク）
写真左がモニターの安永さん

（沖縄県うるま市在住）

監物台樹木園の 多様な植物



172 タニウツギ (スイカズラ科)

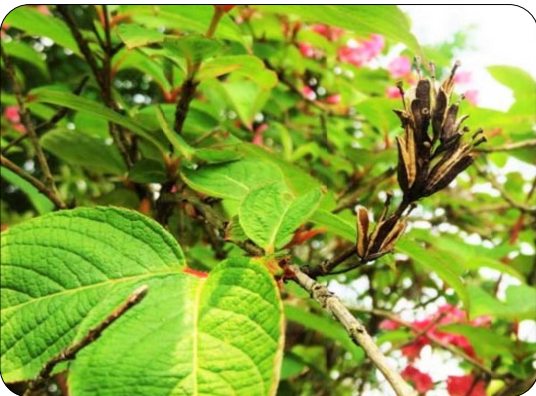
北海道を旅した時に車窓に見えるのはタニウツギばかりだった。九州で見られるのはほとんどがツクシブウツギです。花が咲けば白色からピンク色に変化するのですが、いつも白い花とピンク色の花が混在して観察されます。タニウツギは咲いてから散るまで花の色は変化しません、もちろん時間を経つと白おれて白っぽく見えることはあります。分布が日本海側に特定され



ているので気候のせいかもしれないが、ところ変われば品変わる、の言葉通りだと感じました。九重高原には、牧ノ戸峠の売店の東側に「ベニバナニシキウツギ」があり、花は最初から紅色です。タニウツギは桃色であるから、意識して観察すると、その違いははっきりします。ウツギの名前は髓が空洞であるからと言われていますが、



タニウツギは空洞ではなく「やや大きく白い」と表現される髓があります。葉は対生し、柄があり、葉身は卵形、長楕円形あるいは倒卵形で、先は鋭く尖り、基部は楔型、縁には低い鋸歯が並び上面はやや無毛、下面は白みを帯びてやや密に白毛があります。



森林インストラクター
安楽行雄



世はまだまだコロナ禍。暦では立春を過ぎ、春の兆しと思いきや、まだまだ日本海側は大雪のなごりである。

▼熊本市では春の訪れを告げる風物詩「くまもと春の植木市」が白川河川敷で開催された。この市は約440年の歴史があり、今年も40日間、約90業者による庭木、庭石、草花、刃物の出品と熊本のうまかもの出店があり、外での開催も相まって大変な賑わいがあったと聞く。みなさんもこのような催し物に出向き春の足音を感じとってはいかがか。

▼北京冬季オリンピックが閉幕した。金3個、銀6個、銅9個の活躍、みなさんも記憶に残る瞬間を感じとることができたでしょうか。引き続きパラリンピックが3月4日から開幕。日頃から培った練習成果を精一杯、発揮していただきたいものである。

▼弥生3月は草木がいよいよ生い茂る月、春を迎える準備の季節である。みなさんはコロナ禍で動かしなかつた心身を徐々に動かし、暖かい季節に順応する体づくりをやってみてはどうでしょうか。私も今年こそと思う気持ちである。